

ホネホネ団通信

題字 樽野博幸 顧問

なにわホネホネ団 活動記録 '2003~

2003年

- ◆6/3 宝塚ファミリーランドへ骨もらい Part1
- ◆7/7 宝塚ファミリーランドへ骨もらい Part2
- ◆8/15 タヌキ・ゴイサギ幼鳥皮剥き
- ◆8/19 ハイタカ・ヤマシギ・トラツグミ・タヌキ・アナグマ皮むき
- ◆9/9 キツネ皮むき ◆9/27 アナグマ・ネコ皮むき
- ◆10/12 タヌキ・キツネ皮むき ◆10/15 フサオネズミカンガルー・ミケリス皮むき
- ◆11/1 コサギ皮むき 11/30 ◆ハト色々皮むき
- ◆12/3 天王寺 ZOO 死体もらいプタオザル・ライオン新生児・オオカミ皮むきレイヨウ・アカンガルー砂場へ ◆2/9 骨洗い ◆12/10 シロハラ・アカハラ・トラツグミ皮むき 12/12 カルガモ・ツクシガモ・オシドリ皮むき ◆12/14 タヌキの皮ひっぱり ◆12/21 ホシハジロ・ツクシガモ・コハクチョウ皮むき ◆12/28 シロハラクイナ・クイナ皮むき

2004年

- ◆1/8 大阪自然史フェスティバルへの出展とホネホネ団通信の発行を決定！ ◆1/13 タヌキ・イタチの骨を煮る ◆1/15 タヌキ・イタチの骨を洗う ◆1/16 ウサギの骨を煮る ◆1/17 ムササビ・コウベモグラ・イタチ・テンの冷凍皮の処理 ◆1/19 タヌキの骨洗い、イタチ・タヌキの骨とり ◆1/20 ムササビ・コウベモグラ・イタチ・テンの皮を引っ張る ◆1/23 イタチの骨を箱詰め ◆1/25 イタチの皮を広げる ◆1/29 和歌浦〜片男波へ骨拾い遠征。鳥、リクガメ、ネコの骨をゲット。フェスティバルでの展示を相談 ◆2/3 タヌキ・ネコ・カラス・アオサギの皮むき、展示用に撮影 ◆2/4 タヌキ・ネコの肉とり ◆2/5 タヌキ・ネコを煮る ◆2/6 タヌキ・ネコの骨洗い ◆2/9 タヌキ・ネコの皮を広げる 2/10 タヌキの皮をひっぱり ◆2/18 タヌキの皮をひっぱり(続)上からゴリゴリしてみる ◆2/19 展示のレイアウトを決定 ◆2/23 ゴリゴリしたタヌキの皮がとっても柔らかくなってる！ ◆3/12~フェスティバルの準備に忙しい日々を送る。

これまでの処理数◆哺乳類 27点 鳥類 12点

活動の実態 ついに公開



タヌキを解剖するホネホネ団のメンバー。手際よく皮が剥かれていく。二月十四日

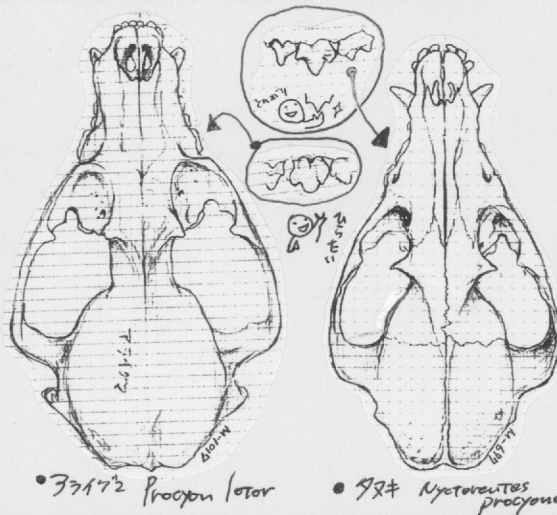
「事故などで死んだ動物たちの死体をちゃんと標本にして残してあげたい。ホネホネ団の活動はこんな想いから始まりました。昆虫のように乾燥させるだけではなく、哺乳類や鳥類は皮を剥いて内臓を取り出して整形したり、骨格標本やなめし皮に処理したりなどけっこう手間がかかります。ですがその分、一頭に対する愛着も深くなります。団員と一緒にこの楽しさをわけあい、皮むき・骨取り・なめし技術を磨いていきたい。それが『なにわホネホネ団』です」

団では週一回程度、活動を続けている。参加希望者は随時受付中とのことだ。

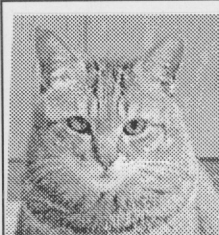
日没後、自然史博物館の新実習室に集うあやしい集団『なにわホネホネ団』の取材に本誌が初めて成功した。『なにわホネホネ団』は、昨年閉園した宝塚ファミリーランドの動物標本を運搬した当時の作業員たちが意気投合して作り上げた自称“部活”である。メス一本でタヌキの死体を手早く剥きながら、団員たちはホネホネ団の活動を次のように語った。

タヌキとアライグマの頭骨

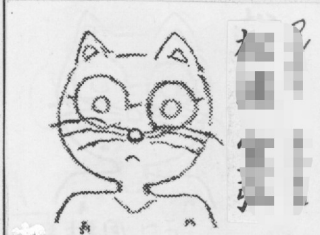
タヌキとアライグマの頭骨は同じ食肉目の違う科なのにパッと見よく似ている。最近じゃ捨てる場所もかぶつてるし、混乱しそう。今回はそんなひとつのために、2つを簡単に見分けるポイントを探してみた。



タヌキはすつきり細面で目の上に出てきた突起が出てくるけど、アライグマはこれがほとんどない(あっても小さい)。歯の数は一緒だけど、奥から3番目の臼歯のあたりがだいぶ違う。タヌキは細長く稜のある切り裂き型で、アライグマは平たく幅広のすりつぶし型なのだ。横から見るとタヌキは吻のところが一旦骨がくびれるのに対し、アライグマはのっぺりとカーブしている。頭骨の大きさもちゃんと測ればアライグマの方がかなり大きいことに気付くのだが、これは横において比べてみての話。現場ではなかなかむずかしい。(二)



一年前まで、皮むきはただの仕事でした。ひよんな事からホネホネ団に入り、ついでにホネホネ団ができて、一緒に皮むきして、骨とりをする仲間ができました。してみると、皮むきや骨とりは意外と楽しい。いつの間にか、背骨を並べたり、割れた頭骨を組み立てたり、皮をなめしたりするのに、熱中しています。この忙しいのに、困ったもんです。



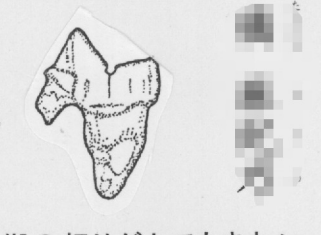
ホネホネ団 会長(仮) 高1の時 頭骨標本(制作) 骨の良さに目覚める。ホネホネ団には 博物館の 通用口 に げんこつ に入ると 45分 待たせられると ころを 団員、副団長に 拾われ 入団。5年 経つと、今は 1番 最初に 作った タヌキの 頭骨です。団員 募集が 続きます。ホネホネ団 副団長 さまは、



ホネホネ団 副団長です。本来は死体集めが趣味。昨年夏宝塚の大量の骨にアライグマの骨のかわいさに開眼!! 現在はネズミ系の頭骨がメイン。お歯に赤い糸の白があることに不思議を感じ、片ぱしから一覽表を作ってます。



ホネホネ団 副団長... とは、名ばかりの一人。骨の鬼木に取りつかれたのは半年前、タヌキの皮むき・骨とりをしながら、骨の一つの骨から、体のどの部分かわかるようにしたい! と勉強中。その中でも第一級(骨)はミッキーマウスに似ててかわいい! 何れかわかりやすいので大好き♡♡



街の灯りがとてもきれい(らしい)なY市出身・大阪万博と同年 ◎↓コロンビアスプレモ落語 ピタゴラスイッチ おもしろくても理科 チョコラザウルス ○↓サイクリング ハーシーのキスチョコ 無印良品 ネコの肉球 & 下顎第一大臼歯(上図参照) △↓徹夜 ハリーポッター MSワード アイスバーン ×↓手首から先の骨 ヨモギ 水泳

ホネホネ団的 自己紹介!!

◎新入部員の紹介は 次号 2期 期待!!

○ザンゲの部屋○

みんなで「剥製・骨格標本作り」を始めて半年余りになる。目指すところは、その死体の持っている情報を最大限に保ち、いかに美しくできるかである。美しくというのは毛皮ならしっかりなめして軟らかく！骨ならきちんと脂を抜いて真っ白に！など、さまざまな過程で技術が必要となってくる。試行錯誤を重ねていくうちに、新しい発見もあり、最近では部員同士で自分達が作った剥製を前にしながら「うちらって上達したよなぁ。」と、しみじみ喜びに浸たる事もある。その瞬間はかなり幸せ♪

しかし、発見の数だけ失敗があるのは世の常！？今回はその中でも特にひどい話を告白しよう。

初めてタヌキの剥製を作った時の事である。哺乳類の皮はしっかりしており、私のような初心者であっても、メスで傷つける事なく、肉・骨から皮をはがせていた。胴体をクリアした私に立ちはだかったのは、「はしっこ」である。肢や尾には、それぞれを動かす筋肉や神経が集まり、当り前だけど骨も先まである。慣れるとそうでもないのだが、最初は剥きにくく時間がかかり、先まで到達するころには疲労困憊してしまう。事件はしっぽを剥いていた時に起こった。残り数ミリでしっぽ完成という時に気を抜いてしまい、メスを入れずに手で引っ張りをはがそうとしてしまった！そしたら皮がやぶけ、尾椎のさきにはふさふさした毛が骨側に残ったのである。まるでライオンの様な姿に周りの部員は絶句。あまりにショックだったのか、しばらくそのタヌキが夢に出てきたものである。

それ以来「はしっこ」を剥く時には特に気をつけているし、経験を積んでいくうちにどれぐらい引っ張ると破けるかなどの加減がわかってきたので、失敗する事はなくなってきた。

これからは失敗しないように頑張るぞ～！お～！

ホネホネ★リレーエッセイ 「ネコ耳な」

「ネコの歯のいじり」

最初に扱った骨がネコ科のものだったせいか、元々ネコが好きなきせいか(だからこそ手始めにネコの骨を触ったのか?)、ネコの骨格、お気に入りである。まあ、大きい眼窩、意外に華奢な顎。いいなあ。上腕骨遠位(肘関節側)の独特の形もなかなか。何より全身が程良くちびつこいのが可愛い。で、歯なんだが、門歯は余り好きではない。ホネっ

ている
(「骨格標本にしている」最中、大抵なくしてしまっから。

やはり食肉類として注目してしまうのは犬歯や裂肉歯。特に下顎の第一大臼歯(自己紹介欄参照)はちようどネコ耳の形をしていてキュート。獲物を切り裂く武器なのに、この愛らしさ。うっとり。

余談全国のチヨロフィギュアコレクターの皆様、最近シークレットト出過ぎじゃないですか？現在、30個中8個がシークレット。可愛いから許すけどさ。でもイリオモテヤマネコの普通バージョン、ほしい…
ということで写真もネコネタで。



04/01/29 和歌山県 片男波にて骨拾い

タヌキまるごと図鑑

盛口 満



団員おすすめの一冊を紹介します
ホネの本棚①「タヌキまるごと図鑑」

盛口満、大日本図書、1997年7月、ISBN4-477-00841-4、1400円+税

▼子ども科学図書館という絵本シリーズの1冊。分布、ため糞の中身、食べ物、足跡、骨と、タイトル通りタヌキについての色々なことが載っている。タヌキに消化できないプラスチックを混ぜたエサを与えて、どのため糞まで運ばれるかを見るのは楽しそう。▼ホネホネ団的には、表の表紙見返しにあるタヌキの背骨一覽、裏の表紙見返しにある前足の骨と背骨の絵が、タヌキの骨を並べるのに役に立つ。また、28-29ページにあるタヌキ、キツネ、ハクビシン、アライグマ、アナグマの、中型食肉類の頭骨の横からの絵が並んでいるのには思わず見入ってしまう。「骨の学校」でも使われている図が多いが、一望できるのがいいところ。▼この本の難点と言え、タヌキの絵に出来不出来があるところか。とくに生きた成獣の絵があまりかわいくない。相対的に目が小さく、吻部が大きいように思う。また、それを表紙に持ってくるもんやから…。中身の割に、ショップではさっぱり売れない。

編集後記

われらのホネホネ団通信がついに発行されました。次号では誰がザンゲするんだろ？やっぱり次まで一番失敗したやつに違いない(じゃあ今のところ一番失敗したのは※澤さんってことか?)。次号でザンゲしなくて済むように、頑張ろう！(わ)←明日はわが身と気を引き締めてホネります。(ま)←切磋琢磨して事ですね！ホネホネ団は仲よしこよし♪(よ)←けれど、ホネるときは誰が一番きれいにできたか競いあいつこですよ☆(ぼ)

次号巻頭特集は
「ホネホネ団R~琉球支部発足!~」
です。乞うご期待!!

死体を拾って下さい!

なにわホネホネ団では、野生動物の死体を随時収集しております！死んでしまった動物からできる限り学んでいきたいと思っていますので、宜しくお願いします。

なお、作成した標本は大阪市立自然史博物館に寄贈しています。

★送るときの注意★

死体は生ものです。死後、すぐにいたみはじめます。なるべく早く冷凍し、できない場合はビニール袋を2重にしたものにブロックアイスを入れて、死体のまわりに詰めてください。小さいものなら、保冷剤でも可能です。直接持ち込んでいただくか、クール宅急便(冷凍)の着払いでもOKです。その場合は電話かメールでご一報ください。

〒546-0034 大阪市住吉区长居公園 1-23 自然史博物館 動物研究室 和田岳

Tel: 06-6627-6221 メール: wadat@mus-nh.city.osaka.jp